



未来留学のキックオフ会で、生徒らに思いを語る栗田恵世社長(右奥)＝大垣市開発町、大垣商業高校

地域の経営課題 生徒挑む

大垣商高でキャリア学習

高校生が地域の企業で事業に関わりながら経営課題の解決やビジネスアイデアの創出に取り組むキャリア学習「未来留学」のキックオフ会が23日、大垣市開発町の大垣商業高校で開かれた。生徒は12月中旬の成果報告に向け、数カ月単位で企業の中に入り、実践的な学びに挑む。

(宮本寛)

コンサルティング業のJPCオーチ&コンサルティング(同市東町、栗田恵世社長)が昨年度、同校や市内の企業とともにスタート。初年度ながら企業の経営改善につなげ、全国の商業研究発表大会で成果を発表、同校は最優秀賞に輝いた。

本年度もマーケティング類型と会計類型の3年生計57人が参加。刺しゅう加工・手芸キット製造の小山(寺内町)では、生産効率を高める資材管理や販売企画、情報発信などを会計類型の生徒が担う。

中華料理店経営のサンコーフードサービス(上面)では、収

企画開発など 12月に成果報告

支計算を含めたコラボ商品の企画開発に、大垣西濃信用金庫(恵比寿町)では、持続可能な開発目標(SDGs)をテーマに3年目を迎えるマルシェの企画、メディア発信、チラシ作成などにマーケティング類型の生徒が取り組む。

キックオフ会では、各社の代表者が自社の課題について説明したほか、代表の生徒が意気込みを語った。栗田社長は「地域の企業や金融機関と経営を学び、地域で活躍する人材を育てるのが狙い。10年先、100年先の地域に未来留学事業をつなげたい」と話した。